

まむる通信

活力ある地域社会と人のふれあい
ともにいっしょに



寺田守 後援会だより

発行:寺田守後援会
会長 鈴木昌二
袋井市久能1810-11
TEL: (44) 1351

E-mail: mamorut@yr.tnc.ne.jp

vol.6
2010.10

市議会 はいらいと

9月議会

- ①緊急雇用創出、農林業振興、工業立地奨励補助金など一般会計補正予算9億300万円が承認されました。
- ②平成21年度一般会計歳入歳出決算(収入済額330億2937万円、支出済額320億995万円)、9つの特別会計(土地取得、健康保険など)、2つの事業会計(水道、市民病院)が承認されました。

6月議会

- ①介護保険事業、緊急雇用創出など一般会計補正予算4200万円が承認されました。



約4万m²の浅羽のコスモス畑(アクアネット梅山による)

市では今、平成18年に定めた10年間の総合計画が半期を過ぎ、後期5年間(平成23年度から27年度)の見直し作業を行っています。少子高齢化の進行と、このところの急速に進んだ経済・雇用情勢の悪化は、今後の市政運営にも多くの課題を投げかけています。地方分権、環境保全、高度情報化社会、ライフスタイルの多様化、市民参画意識の高まりと言った変化の中で、新しい市政運営のあり方と取り組みが求められています。

市内の保育所、幼稚園、小学校に緊急地震速報受信システムを配備

予想される東海地震などに備え、10月1日市内の小学校、幼稚園、保育所に緊急地震速報システムが配備されました。

この速報システムは、気象庁の緊急地震速報を受け、市庁舎の再配信サーバーから一斉にこれら各施設に避難情報を流すものです。この仕組みは、地震波の特性を利用したもので、P波と言われる速度の早い小さな縦揺れ(速度6~8km/s)を感じて地震警報を伝え、S波と言われる大きな横揺れ(速度3~4km/s)に備えようとするものです。これがうまく機能すれば、地震の大きな揺れを事前に察知することが出来、被害を軽減することが可能になると言われています。

しかしこのシステムは、すぐ近くで発生した地震や、震源の位置などによっては必ずしも十分に機能しない場合もあり、技術的な問題も残されていると言われています。



速報による避難訓練(10月1日/北小学校)



緊急地震速報システム

消防通信指令室の 再編統合



消防本部の通信指令室

火災や救急など緊急時の通報を受けて、消防署や消防団に出動指令を出しているのが消防通信指令室です。当市は、森町と広域行政組合を組んで消防業務を行っていますが、川井にある消防本部に設けられた通信指令室では24時間体制で指令業務にあたり、年間30～40件の火災、3000件を超える救急通報を処理しています。

現在検討されているのは、この通信指令室の広域化です。通信指令室には、指令を行うための高額なコンピューター機器が備えられています。広域化すれば、18億円余と言われる機器の購入を共同で負担する事が出来、また指令室を担う人員も約半分に減らすことが出来ます。

現在検討されている広域化の枠組みは、5市1町（袋井、磐田、掛川、菊川、御前崎市、森町）となっています。また指令本部の設置場所については、免震構造になっている旧福田町庁舎があげられています。建設にかかる各市町の負担割合は、均等割20%、人口割80%、運用開始は平成24年4月となっています。

通信指令室の広域化そのものは、県東部では沼津市などが3市2町の枠組みで運用されています。また1300万人都市の東京都でも2指令です。

今後、検討すべきは広域化の中で、今以上の迅速できめ細かな体制作りをどう構築していくかになります。特に掛川袋井新病院建設、第2東名インターチェンジ開設と言った新たな周辺の変化の中で整備のあり方が求められています。

国本にぎわい まちづくり事業の 策定

市役所の北東部、国道1号線バイパスと旧国道に囲まれた国本の農地一帯は、交通の利便性も高く、住居地にも隣接していることから、市内でも残された数少ないにぎわい創出地区として注目されてきました。今回、市当局ではこの地域の開発を「国本にぎわいまちづくり事業」として地区を明確にし、平成25年度目標に事業者選定のプロポーザル実施に向け、仕切り直しをしていくことになりました。

国本地区は、平成6,7年に相次いで2つの大手商業者が開発に手を挙げ、地権者との交渉も始まりました。しかし、地権者組織が1本化出来なかったこと、まちづくりの全体的なグランドデザインの等もあり、進展が遅っていました。そしてこの数年、国の法律改正も進み、農用地除外の条件は、以前とは格段に厳しくなってきました。

現在、この問題を解決できるのは、農業の保護を掲げる27号計画に沿った計画策定と言われています。27号計画では、農地を別の目的で転用する場合、それが農業の振興に繋がるものであるという明確なビジョンと、計画が必要となっています。

当市は「農あるまちづくり」をまちづくりの方針に挙げています。農業を活かしつつ、これと調和するまちづくりの知恵とノウハウが求められます。



農地が広がる国本一帯

◆27号計画とは

平成19年3月に制定された農振法施行規則第4条の4第1項第27号に掲げられている農地保護のための法律「地域の農業振興に関する地方公共団体の計画」。農用地

区域(青地)別の目的で開発する場合には、その地域の農業の振興に必要な事業であること、また定期的な事業の検証を受ける必要があることなどの条件が定められている。

私の一般質問より

◆山科東工業団地への企業誘致(6月議会)

質問 山科東工業団地の造成が完成に近づいているが、企業誘致の見通しはどうなっているか。

回答 企業誘致については、当市の工業振興計画に基づき、遅くとも前期5年には達成できるよう計画している。市内には、企業誘致を強化するため、新たにチームを編成し、全力を傾注して早期の誘致に取組んで行きたい。



◆地域資源「大日化石」の活用(9月議会)

質問 現在、「(仮称)大日ホタルの里公園」の整備が進められているが、宇刈地区には化石を多く含む大日砂層がある。近年、ジオパークが注目を集めているが、大日化石を地域資源として公園整備に活かしてはどうか。

回答 公園は、社会資本整備総合交付金事業を活用して整備しており、その事業に地域資源の調査事業がある。現在、ワークショップを進めて頂いているが、公園内への大日化石の展示、案内板の設置なども検討して行きたい。



●大日化石とは

当市の宇刈、森町、掛川市一帯には、大日砂層と言われる地層が広がっています。この地層からは、今から約300万年前の鮮新世といわれる時代の、多くの貝類、鮫の歯などの化石が発見されており、早くから化石の宝庫として注目されてきました。ここで採取された化石からは、生物の進化の歴史、地球環境を研究する多くの学術論文も記述され、また最初に発見されたと言うことから、ダイニチフミガイ、ウガリオオコゲチャダケガイ、スウチ(周智)キサゴなどと言った当地名からとった和名・学名が付けられた種も多くあります。

●ジオパークとは

ジオパークとは、大地の公園とも言われ、地球科学的にみて重要な地形や地質、化石などの自然遺産を保全し、地域と共に活用しようとするものです。ユネスコが世界的に認定しているものに、国内には「糸魚川」など3つのジオパークがあり、その国内版としては、「南アルプス中央構造線」など8つのジオパークがあり伊豆半島も候補に上げられています。更にそれより規模の小さなものも、ジオスポットとして地域資源として活用する動きがあります。

◆自治会要望書への回答記載(9月議会)

質問 各地域からの要望は、各自治会から「地元要望制度」に従って市に提出されている。要望書の様式には、「回答は口頭で行う」となっているが、書面で回答していく必要があると思うがどうか。

回答 これまで文書での回答を求められた場合には、担当課から回答を行っている。様式の変更については、要望箇所の対応状況を説明できるように、今後、回答欄の追加記載を含め、改善を検討して参りたい。

◆久野城南遊水池計画(6月議会)

質問 平成27年度の完成を目指し、久野城址前の遊水池整備計画が進められている。治水事業としても大切な事業だが、城址公園前の遊水池であり周囲の景観に配慮し、市民憩いの場として整備する必要があると思うがどうか。

回答 久野城址南遊水池は、鷲巣川の流下能力不足を補う治水事業として整備を進めている。整備にあたっては、地元自治会や久野城址保存会の皆様のご意見を取り入れ、将来にわたって城址と連携・調和した遊水池となるよう努めて行きたい。



この他の一般質問

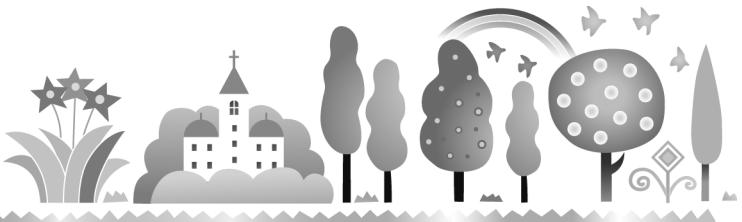
◆公共施設の安全管理(9月議会)

◆防災ボランティア活動の表彰(9月議会)

◆北分庁舎の防災展示(6月議会)

◆太陽光発電の公共施設への設置(6月議会)

◎みんなの力で住み良いまちをつくろう
まちがどウォッキング



袋井北小学校プール改築工事

袋井北小学校プールの改築工事が始まり、10月5日には地鎮祭が行われました。現プールは昭和40年7月に完成しましたが45年間経過し、老朽化のため改築されることになったものです。25mプールは2コース増えて8コースに、小プールも建設されます。完成は来年5月の予定。浄水装置や緊急用給水システムなど災害時の防災機能も整備されます。



ベトナムとの友好を進める交流事業

浅羽梅山の常林寺には、明治時代、ベトナム独立運動「東遊運動」の指導者ファン・ボイ・チャウ氏ゆかりの石碑が建立されています。これは当時、ファンを支援した故浅羽佐喜太郎氏の懇意に建てられたものです。9月11日には袋井ベトナム交流会議による友好事業がメロープラザにてベトナム留学生などを招いて行われ、ベトナム駐日大使のグエン・フー・ビン氏の一行も訪れました。



のびのび園庭グリーン事業

幼稚園の運動場に芝生を張り、園児たちに元気よく体を動かしてもらおうと「のびのび園庭グリーン事業」が県下で初めて採択されました。6月に移植した芝生は順調に育っています。今年は若葉、高南、田原の3つの幼稚園で実施され、次年度も順次進めいく計画です。9月2日には若葉幼稚園で芝生の上で運動会が行われました。



「ふくろい特産品宣伝隊」支援事業

袋井のメロン、茶、米などの特産品を全国に発信して行こうと、「ふくろい特産物宣伝隊」支援事業が進められています。計画では、走る宣伝隊と言うべきカラフルにデザインされたトラック(冷蔵庫付き)、マイクロバスの各1台が用意され、各地のイベントなどに参加することになっています。皮切りとして9月17日、厚木市で行われた第5回B-1グランプリに出発しました。



建築進む近藤記念館

浅羽支所周辺の整備が行われていますが、ここに浅羽大野出身で(株)ビー・エム・エルを創業した近藤健次氏からご寄付頂いた3億円をもとに(仮称)近藤記念館の建設が進められています。建物は浅羽郷土資料館(後方の建物)と隣接する形で建てられ、旧の軽便鉄道などを配したエントランス広場などが整備されます。